

名立区 36号 2020・2 地域協議会だより

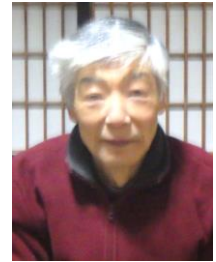


発行 名立区地域協議会
編集 協議会だより編集委員
名立区地域協議会事務局
(名立区総合事務所
総務・地域振興グループ)
TEL 025-537-2121

「挨拶

会長

塚田 正



令和初の年明けから早くも一ヶ月半が経過しましたが、皆様方には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より当協議会に心温まるとご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、平成17年に旧上越市と近隣の13町村の人口25万人の中核都市を目指し、大同合併の名の下に新しい上越市が誕生し、以来15年が経過しました。改めて「光陰矢の如し」の格言が身に染みる思いです。

広域的な視野による検証の必要性から昨年10月に市議会との意見交換会が開催されました。各区が直面している課題を自主的審議事項として設定し、その解決に向け鋭意努力を続けているところですが、協議員からも傍聴等により、その実情を理解され活動に活かしてほしい旨を要望いたしました。

また、11月に協議会の会長会議が開催されました。その中で、本年4月には委員の任期満了により改選が実施され、定員は現行390名から8名減の382名となりますが、当名立区では12名で変わりはないとのことでした。

協議会の主たる任務は①自主的審議事項の協議、②市の諮問事項の協議、③市のメイン施策の一つでもある地域活動支援事業の審査等があります。合併後15年の検証と委員の改選期を直前に、市からの提案に対し、他団体との連携の重要性を認識しながら閉会となりました。今後とも皆様方の更なるご指導をお願い申し上げます。

次期委員を募集します

現委員の任期(令和2年4月28日)満了に伴い、名立区の次期の地域協議会委員を左記のとおり募集します。

【要件】 名立区にお住まいの25歳以上の方(議員、常勤の公務員等を除く)

【任期】 令和2年4月29日～令和6年4月28日(4年間)

【定数】 12名

【報酬】 無報酬(会議1回につき交通費相当額として1200円をお支払いします。)

【募集期間】 令和2年3月9日～22日

【問合せ先】 名立区総合事務所 総務

地域振興グループ
TEL 537・2121

<トピックス> 地域で活動する地域協議会委員(その2)

名立の子どもを守り育む会の活動について

徳田 幸一

私は「名立の子どもを守り育む会」の活動に携わってから、5年が経過しました。各地に地域青少年育成会がある中で、会の名称は高橋良弘前会長の強い思いもあって付けられました。

現在、「育む会」は各種団体、地域住民から選出された24名の委員が3班に分かれ、1班はふるさと地域、2班は学校活動、3班は安心安全を担当して、多岐に渡り活動しています。

活動結果は、地域協議会委員4名が評価委員として、各活動について、AからDの4段階で評価します。この仕組みは上越市内においても珍しい仕組みです。

私は過去4年間3班に所属していましたが、今年度は1班の所属に変わりました。1班の活動の中でも長野県東御市北御牧地区の児童との

「海の交流会」が一番好きです。

また、あいさつ運動の評価がAランクになる日が一日でも早く来よう今後とも微力ながら尽力していきたいです。



↑「海の交流会」の集合写真

視察研修（11月18日実施）

今年度は、移住定住等の取組により6世帯13人、高齢化率62%だった集落が9世帯21人、民宿1軒に回復し「奇跡の集落」と呼ばれる十日町市の池谷集落を視察しました。

視察研修に参加して

原田 秀樹

暖かい日差しの中、十日町市池谷集落は想像していたよりも街区に近く、それでいて急峻な坂道がつつら折りになったその先にかにも山村という風情で私たちを出迎えてくれました。廃校になった地元小学校校舎をNPO法人の事務所兼研修センターとして再利用した建物の講堂でお聞きしたお話はとても熱く、心のこもったものでした。



↑ 廃校になった地元小学校校舎を利用したNPO法人の事務所兼研修センター

名立で同様の取組をすれば、まず、地域住民の意見交換からとなります。小さな集落であれば話し合いによる意思統一は可能でしょうが、係る人数が多くなると時間も手間も必要となるでしょう。また、組織的な後ろ盾がない地域では話し合いさえもかなり困難となりそうです。お二人のお話を聞

↓ 「NPO 地域おこし」多田氏による講演



いていると淡々と、なおかつ着々と進めてこられたように感じますが、本当のところはかなりご苦労をされたのではないかと思います。交流人口、移住者。これを増やそうという発想は、その先に何を思い描くかという、地域全体の目標を確認し、持ち続けることが大事なことであり、そうでなければ、この活動はこんなふうには継続できないのではないかと考えられます。お二人の優しい語り口にはのぼのとした、それでいてたくましさを感じた研修でした。

視察研修について

木村 和子

今年度の地域協議会の視察研修は、移住定住の先進地として有名な十日町の池谷集落へ行きました。

「NPO地域おこし」からは、中越大地震を機に、ボランティア等から様々な刺激を受け、震災復興から村おこしへと段階を経て大きく変わってきたことを、その後の「スノーデイズファーム」の佐藤さんからは、定住するきっかけや今、仲間と共に楽しく農業をしていること等について講演していただき、子育てしながら活気に満ちている様子がよく伝わってきました。

名立区地域協議会の動き

○地域協議会

- 第6回 9月25日(水)
- 第7回 10月24日(木)
- 第8回 11月26日(火)
- 第9回 12月19日(木)
- 第10回 1月20日(月)
- 第11回 1月27日(月)

○市議会と地域協議会との意見交換会

10月8日(火)

○地域協議会会長会議

11月6日(水)

○視察研修：11月18日(月)

視察先：十日町市(池谷集落)

○活動報告会：2月2日(日)

○名立区地域協議会はどなたでも傍聴できますので、お気軽にお越しください。詳しい開催日については、区広報紙「しずく」等でご案内します。

「スノーデイズファーム」

↓ 佐藤氏による講演



震災がきっかけだったかもしれないが、人とのつながりがとても重要だと思えました。そしてそこで暮らしている人々の「農業を継いで欲しい」という強い思い、移住してくる人を受け入れるための準備が大切なのだと思います。名立区もあと10年経ったらどうなるのかと心配になると同時に、池谷集落のように都会の人を受け入れるためには、受入側の意識の醸成や受入れ体制のハード・ソフト両面での整備等ハードルが高いようにも感じられました。

編集後記

2月に入り、立春が過ぎ春も近づいています。

私が住んでいる不動地区では毎年2月下旬に地区の一大イベントである不動ミニキャンドルロードが開催され、地区を挙げてボランティアの皆さんと一緒に様々な準備をして皆さんをお迎えしています。

今年は2月22日(土)に不動地域生涯学習センターで開催します。今のところ暖冬で、雪もあまり降っていませんが、積雪が少ない場合でもペットボトルを使用したキャンドルアートを作成し、茶屋も出る予定ですので、皆さんお誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。

(編集委員) 草間 照光